

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子									
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期		必修・選択 必修									
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○尊厳の保持を理解する。</p> <p>○自立・自律の支援を理解する。</p> <p>○ノーマライゼーションを理解する。</p> <p>○利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第1章 人間の尊厳と自立</td> <td>p.2～p.50</td> </tr> <tr> <td> 第1節 人間の多面的な理解と尊厳</td> <td>p.2～p.11</td> </tr> <tr> <td> 第2節 自立・自律の支援</td> <td>p.12～p.22</td> </tr> <tr> <td> 第3節 人権と尊厳</td> <td>p.24～p.45</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</p>						第1章 人間の尊厳と自立	p.2～p.50	第1節 人間の多面的な理解と尊厳	p.2～p.11	第2節 自立・自律の支援	p.12～p.22	第3節 人権と尊厳	p.24～p.45
第1章 人間の尊厳と自立	p.2～p.50												
第1節 人間の多面的な理解と尊厳	p.2～p.11												
第2節 自立・自律の支援	p.12～p.22												
第3節 人権と尊厳	p.24～p.45												
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>			<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護保険制度の体系、目的を理解する。 ○介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 ○介護保険制度の専門職の役割等を理解し、利用者家族等へ助言できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第2章 介護保険制度の理解</td> <td>p.52～p.101</td> </tr> <tr> <td> 第1節 介護保険制度創設の背景と目的</td> <td>p.52～p.61</td> </tr> <tr> <td> 第2節 介護保険制度の基礎的理解</td> <td>p.62～p.91</td> </tr> <tr> <td> 第3節 介護保険制度における専門職の役割</td> <td>p.92～p.96</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>					第2章 介護保険制度の理解	p.52～p.101	第1節 介護保険制度創設の背景と目的	p.52～p.61	第2節 介護保険制度の基礎的理解	p.62～p.91	第3節 介護保険制度における専門職の役割	p.92～p.96
第2章 介護保険制度の理解	p.52～p.101											
第1節 介護保険制度創設の背景と目的	p.52～p.61											
第2節 介護保険制度の基礎的理解	p.62～p.91											
第3節 介護保険制度における専門職の役割	p.92～p.96											
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者											
社会の理解Ⅱ		(通信授業)		生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子											
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択											
	30時間			必修											
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間の生活や社会の関わり、自助から公助に至る過程について理解する。</p> <p>○我が国の社会保障制度の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。</p> <p>○介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を理解する。</p> <p>○介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度、虐待防止法などの諸制度の基礎的知識を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">第3章 社会のしくみの理解</td> <td style="text-align: right;">p.104～p.248</td> </tr> <tr> <td> 第1節 生活と福祉</td> <td style="text-align: right;">p.104～p.125</td> </tr> <tr> <td> 第2節 社会保障制度</td> <td style="text-align: right;">p.126～p.171</td> </tr> <tr> <td> 第3節 障害者自立支援制度</td> <td style="text-align: right;">p.172～p.201</td> </tr> <tr> <td> 第4節 介護実践にかかわる諸制度</td> <td style="text-align: right;">p.202～p.237</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。</u></p> <p>○<u>社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</u></p> <p>○<u>障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u></p> <p>○<u>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</u></p>						第3章 社会のしくみの理解	p.104～p.248	第1節 生活と福祉	p.104～p.125	第2節 社会保障制度	p.126～p.171	第3節 障害者自立支援制度	p.172～p.201	第4節 介護実践にかかわる諸制度	p.202～p.237
第3章 社会のしくみの理解	p.104～p.248														
第1節 生活と福祉	p.104～p.125														
第2節 社会保障制度	p.126～p.171														
第3節 障害者自立支援制度	p.172～p.201														
第4節 介護実践にかかわる諸制度	p.202～p.237														
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>			<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>												

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解する。</u></p> <p>○<u>個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table border="0"> <tr> <td>第1章 介護福祉士と介護の考え方</td> <td>p.1～p.50</td> </tr> <tr> <td> 第1節 介護福祉士制度</td> <td>p.2～p.9</td> </tr> <tr> <td> 第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</td> <td>p.10～p.31</td> </tr> <tr> <td> 第3節 介護福祉士の倫理</td> <td>p.32～p.44</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</p> <p>○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、遵守している。</p>					第1章 介護福祉士と介護の考え方	p.1～p.50	第1節 介護福祉士制度	p.2～p.9	第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	p.10～p.31	第3節 介護福祉士の倫理	p.32～p.44
第1章 介護福祉士と介護の考え方	p.1～p.50											
第1節 介護福祉士制度	p.2～p.9											
第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	p.10～p.31											
第3節 介護福祉士の倫理	p.32～p.44											
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護 I」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。 その他、必要に応じプリント配布有り。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>演習問題による添削 60点以上で合格 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p>										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子										
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修										
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。</u></p> <p>○<u>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得する。</u></p> <p>○<u>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得する。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第2章 介護福祉士による介護実践</td> <td>p.52～p.112</td> </tr> <tr> <td>第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援</td> <td>p.52～p.67</td> </tr> <tr> <td>第2節 介護実践における連携</td> <td>p.68～p.81</td> </tr> <tr> <td>第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント</td> <td>p.82～p.97</td> </tr> <tr> <td>第4節 介護福祉士の安全</td> <td>p.98～p.106</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</p> <p>○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</p> <p>○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</p>					第2章 介護福祉士による介護実践	p.52～p.112	第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援	p.52～p.67	第2節 介護実践における連携	p.68～p.81	第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント	p.82～p.97	第4節 介護福祉士の安全	p.98～p.106
第2章 介護福祉士による介護実践	p.52～p.112													
第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援	p.52～p.67													
第2節 介護実践における連携	p.68～p.81													
第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント	p.82～p.97													
第4節 介護福祉士の安全	p.98～p.106													
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>演習問題による添削 60点以上で合格 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p>												

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子										
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修										
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護におけるコミュニケーション技術を理解する。 ○介護場面による利用者・家族とのコミュニケーション技術を理解する。 ○介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○自宅等においてテキストを熟読させる。 ○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組みさせる。 ○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第3章 コミュニケーション技術</td> <td>p.114～p.181</td> </tr> <tr> <td>第1節 介護におけるコミュニケーション</td> <td>p.114～p.119</td> </tr> <tr> <td>第2節 介護におけるコミュニケーション技術</td> <td>p.120～p.133</td> </tr> <tr> <td>第3節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</td> <td>p.134～p.157</td> </tr> <tr> <td>第4節 介護におけるチームのコミュニケーション</td> <td>p.158～p.183</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ○援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p>					第3章 コミュニケーション技術	p.114～p.181	第1節 介護におけるコミュニケーション	p.114～p.119	第2節 介護におけるコミュニケーション技術	p.120～p.133	第3節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	p.134～p.157	第4節 介護におけるチームのコミュニケーション	p.158～p.183
第3章 コミュニケーション技術	p.114～p.181													
第1節 介護におけるコミュニケーション	p.114～p.119													
第2節 介護におけるコミュニケーション技術	p.120～p.133													
第3節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	p.134～p.157													
第4節 介護におけるチームのコミュニケーション	p.158～p.183													
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)												

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子																		
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修																		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○生活支援とICFについて理解する。</p> <p>○ボディメカニクスの基本原則を理解し活用する事が出来る。</p> <p>○介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を理解する。</p> <p>○居住環境整備、福祉用具活用等の視点について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○自宅等においてテキストを熟読させる。</p> <p>○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組ませる。</p> <p>○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table border="0"> <tr> <td>第4章 自立に向けた介護の方法</td> <td>p.186～p.319</td> </tr> <tr> <td> 第1節 生活支援とICF</td> <td>p.186～p.193</td> </tr> <tr> <td> 第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用</td> <td>p.194～p.205</td> </tr> <tr> <td> 第3節 移動・移乗の介護技術の基本</td> <td>p.206～p.236</td> </tr> <tr> <td> 第4節 食事の介護技術の基本</td> <td>p.236～p.243</td> </tr> <tr> <td> 第5節 入浴・清潔保持の介護技術の基本</td> <td>p.244～p.261</td> </tr> <tr> <td> 第6節 排泄の介護技術の基本</td> <td>p.262～p.269</td> </tr> <tr> <td> 第7節 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本</td> <td>p.270～p.287</td> </tr> <tr> <td> 第8節 家事援助の基本</td> <td>p.288～p.311</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</p> <p>○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、介護技術の基本を修得している。</p> <p>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>					第4章 自立に向けた介護の方法	p.186～p.319	第1節 生活支援とICF	p.186～p.193	第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用	p.194～p.205	第3節 移動・移乗の介護技術の基本	p.206～p.236	第4節 食事の介護技術の基本	p.236～p.243	第5節 入浴・清潔保持の介護技術の基本	p.244～p.261	第6節 排泄の介護技術の基本	p.262～p.269	第7節 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	p.270～p.287	第8節 家事援助の基本	p.288～p.311
第4章 自立に向けた介護の方法	p.186～p.319																					
第1節 生活支援とICF	p.186～p.193																					
第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用	p.194～p.205																					
第3節 移動・移乗の介護技術の基本	p.206～p.236																					
第4節 食事の介護技術の基本	p.236～p.243																					
第5節 入浴・清潔保持の介護技術の基本	p.244～p.261																					
第6節 排泄の介護技術の基本	p.262～p.269																					
第7節 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	p.270～p.287																					
第8節 家事援助の基本	p.288～p.311																					
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>																				

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子																
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期		必修・選択 必修																
<p>[授業の目的・ねらい] ○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「睡眠」「終末期」のそれぞれについて、<u>利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備について理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○自宅等においてテキストを熟読させる。 ○科目全体の内容を十分理解した上で、各科目ごとに用意された課題に取り組ませる。 ○課題を評価し、必要に応じて指導を行う。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第5章 利用者の心身の状況に応じた介護</td> <td>p.322～p.426</td> </tr> <tr> <td> 第1節 移動・移乗の介護</td> <td>p.322～p.345</td> </tr> <tr> <td> 第2節 食事の介護</td> <td>p.346～p.355</td> </tr> <tr> <td> 第3節 入浴・清潔保持の介護</td> <td>p.356～p.363</td> </tr> <tr> <td> 第4節 排泄の介護</td> <td>p.364～p.383</td> </tr> <tr> <td> 第5節 着脱、整容、口腔清潔の介護</td> <td>p.384～p.393</td> </tr> <tr> <td> 第6節 睡眠の介護</td> <td>p.394～p.407</td> </tr> <tr> <td> 第7節 終末期の介護</td> <td>p.408～p.421</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○「移動・移乗」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「睡眠」「終末期」のそれぞれについて、<u>利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</u></p>					第5章 利用者の心身の状況に応じた介護	p.322～p.426	第1節 移動・移乗の介護	p.322～p.345	第2節 食事の介護	p.346～p.355	第3節 入浴・清潔保持の介護	p.356～p.363	第4節 排泄の介護	p.364～p.383	第5節 着脱、整容、口腔清潔の介護	p.384～p.393	第6節 睡眠の介護	p.394～p.407	第7節 終末期の介護	p.408～p.421
第5章 利用者の心身の状況に応じた介護	p.322～p.426																			
第1節 移動・移乗の介護	p.322～p.345																			
第2節 食事の介護	p.346～p.355																			
第3節 入浴・清潔保持の介護	p.356～p.363																			
第4節 排泄の介護	p.364～p.383																			
第5節 着脱、整容、口腔清潔の介護	p.384～p.393																			
第6節 睡眠の介護	p.394～p.407																			
第7節 終末期の介護	p.408～p.421																			
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護Ⅰ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)																		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅰ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい] ○<u>介護過程の基礎的知識(目的、意義、展開等)を理解する。</u> ○<u>介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。</u> ○<u>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第1章 介護過程の基礎的理解</td> <td>p.1～p.48</td> </tr> <tr> <td> 第1節 介護過程の意義と目的</td> <td>p.2～p.7</td> </tr> <tr> <td> 第2節 介護過程の展開</td> <td>p.8～p.31</td> </tr> <tr> <td> 第3節 介護過程とチームアプローチ</td> <td>p.32～p.43</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○<u>介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</u> ○<u>介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</u> ○<u>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</u></p>					第1章 介護過程の基礎的理解	p.1～p.48	第1節 介護過程の意義と目的	p.2～p.7	第2節 介護過程の展開	p.8～p.31	第3節 介護過程とチームアプローチ	p.32～p.43
第1章 介護過程の基礎的理解	p.1～p.48											
第1節 介護過程の意義と目的	p.2～p.7											
第2節 介護過程の展開	p.8～p.31											
第3節 介護過程とチームアプローチ	p.32～p.43											
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子
授業の回数	時間数 25時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。</p> <p>○観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>第2章 介護過程の展開の実際 p.50～p.125</p> <p>介護職による介護過程の進め方 p.50～p.69</p> <p>介護過程の実践的展開 p.70～p.71</p> <p>事例1 施設で暮らす高齢者の介護過程 p.72～p.91</p> <p>事例2 在宅で暮らす高齢者の介護過程 p.92～p.111</p> <p>演習課題 p.112～p.123</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 演習授業・スクーリング		授業担当者(主担当者のみ掲載) 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
6回(6日間)	45時間			必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○研修課程で学んだ知識・技術を総合し介護過程を展開して、利用者の特性に応じた介護が提供できる能力を養う。 ○介護技術の原理原則の修得・実践。 ○演習を通して介護過程を理解し知識の統合を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○<u>介護過程の展開の実際</u> 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</p> <p>○<u>介護技術の評価</u> 介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>1回目 ・介護過程の基礎知識と応用 ・<u>介護過程の展開の実際(事例1を用いたグループワーク・ロールプレイ)</u> ・<u>介護技術の原理原則の修得・実践</u></p> <p>2回目～5回目 ・<u>介護過程の展開の実際(事例2.3.4を用いたグループワーク・ロールプレイ)</u> ・<u>介護技術の原理原則の修得・実践</u></p> <p>6回目 ・<u>介護技術の評価</u> ・知識等の習得度の評価</p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>1. 介護過程の展開についての評価 事例のアセスメント表と、個別援助計画を作成、提出。 介護過程の展開80点、受講態度20点。合計60点以上で合格。 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p> <p>2. 介護技術の評価 演習課題の中から一つを選び、一人ずつ技術試験を実施。 介護技術80点、受講態度20点。合計60点以上で合格。 (60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p> <p>3. 知識等習得度の評価 知識習得を確認するために筆記試験を実施 60点以上で合格(60点未満の者は再度、試験・評価を行う)</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子						
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修							
<p>[授業の目的・ねらい] ○老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。 ○老化に伴うからだ(身体的機能)の変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答し、評価する。</p> <p>[テキスト該当ページ]</p> <table> <tr> <td>第1章 老化に伴うところとからだの変化</td> <td>p.1～p.38</td> </tr> <tr> <td> 第1節 ところの変化と日常生活への影響</td> <td>p.2～p.9</td> </tr> <tr> <td> 第2節 からだの変化と日常生活への影響</td> <td>p.10～p.32</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○高齢者の身体面と精神面の関連、身体機能と精神機能の変化を理解し、社会参加や自己実現を目指す支援ができる。</p>					第1章 老化に伴うところとからだの変化	p.1～p.38	第1節 ところの変化と日常生活への影響	p.2～p.9	第2節 からだの変化と日常生活への影響	p.10～p.32
第1章 老化に伴うところとからだの変化	p.1～p.38									
第1節 ところの変化と日常生活への影響	p.2～p.9									
第2節 からだの変化と日常生活への影響	p.10～p.32									
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「ところとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)								

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい] ○人間の成長、発達について理解する。 人間の生理的な発達として誕生から死に至る個人の生涯にわたる生理的な変化を理解する。 人間の心理的な発達として、人との相互関係を理解し、量的・質的な心理的变化や変容を理解します。 人間共通の一般的な変化発達と個人差が大きい発達を学びます。 ○老年期の発達・成熟と心理について理解する。 ライフサイクルの中の老年期とはどのような時期かを理解する。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 高齢者に多い症状や疾病を理解し日常生活との関係を学ぶ。保健・医療職種との具体的な連携を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答し、評価する。</p> <p>[テキスト該当ページ]</p> <table border="0"> <tr> <td>第2章 老年期の発達, 成熟と健康</td> <td>p.40～p.102</td> </tr> <tr> <td> 第1節 人間の成長・発達</td> <td>p.40～p.45</td> </tr> <tr> <td> 第2節 老年期の発達・成熟と心理</td> <td>p.46～p.55</td> </tr> <tr> <td> 第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等</td> <td>p.56～p.95</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○<u>発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</u> ○<u>老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</u> ○<u>高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</u> ○<u>保健・医療職種との連携ができるようになる。</u></p>					第2章 老年期の発達, 成熟と健康	p.40～p.102	第1節 人間の成長・発達	p.40～p.45	第2節 老年期の発達・成熟と心理	p.46～p.55	第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等	p.56～p.95
第2章 老年期の発達, 成熟と健康	p.40～p.102											
第1節 人間の成長・発達	p.40～p.45											
第2節 老年期の発達・成熟と心理	p.46～p.55											
第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等	p.56～p.95											
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。</u></p> <p>○<u>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</u></p> <p>○<u>認知症の人との関わり方・支援の基本を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅で演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第3章 認知症の基礎的理解</td> <td>p.104～p.128</td> </tr> <tr> <td> 第1節 認知症ケアの理念と視点</td> <td>p.104～p.107</td> </tr> <tr> <td> 第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴</td> <td>p.108～p.117</td> </tr> <tr> <td> 第3節 認知症の人とのかかわり・支援の基本</td> <td>p.118～p.125</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○<u>認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</u></p> <p>○<u>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u></p> <p>○<u>認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</u></p>					第3章 認知症の基礎的理解	p.104～p.128	第1節 認知症ケアの理念と視点	p.104～p.107	第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴	p.108～p.117	第3節 認知症の人とのかかわり・支援の基本	p.118～p.125
第3章 認知症の基礎的理解	p.104～p.128											
第1節 認知症ケアの理念と視点	p.104～p.107											
第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴	p.108～p.117											
第3節 認知症の人とのかかわり・支援の基本	p.118～p.125											
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子						
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修						
<p>[授業の目的・ねらい] ○<u>認知症を医学的側面から見て理解する。</u> ○<u>認知症の人や家族への支援を理解する。</u> ○<u>地域におけるサポート体制を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅で演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第4章 認知症の医学的理解と支援の実際</td> <td>p.130～p.193</td> </tr> <tr> <td> 第1節 医学的側面からみた認知症の理解</td> <td>p.130～p.153</td> </tr> <tr> <td> 第2節 認知症の人や家族への支援の実際</td> <td>p.154～p.188</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○<u>代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</u> ○<u>認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</u> ○<u>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</u></p>					第4章 認知症の医学的理解と支援の実際	p.130～p.193	第1節 医学的側面からみた認知症の理解	p.130～p.153	第2節 認知症の人や家族への支援の実際	p.154～p.188
第4章 認知症の医学的理解と支援の実際	p.130～p.193									
第1節 医学的側面からみた認知症の理解	p.130～p.153									
第2節 認知症の人や家族への支援の実際	p.154～p.188									
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)								

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子								
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修								
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。</p> <p>○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</p> <p>○障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table border="0"> <tr> <td>第5章 障害の基礎的理解</td> <td>p.196～p.242</td> </tr> <tr> <td> 第1節 障害者福祉の理念</td> <td>p.196～p.203</td> </tr> <tr> <td> 第2節 障害による生活障害、心理・行動の特徴</td> <td>p.204～p.229</td> </tr> <tr> <td> 第3節 障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本</td> <td>p.230～p.235</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>○障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</p>					第5章 障害の基礎的理解	p.196～p.242	第1節 障害者福祉の理念	p.196～p.203	第2節 障害による生活障害、心理・行動の特徴	p.204～p.229	第3節 障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	p.230～p.235
第5章 障害の基礎的理解	p.196～p.242											
第1節 障害者福祉の理念	p.196～p.203											
第2節 障害による生活障害、心理・行動の特徴	p.204～p.229											
第3節 障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本	p.230～p.235											
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>										

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○<u>障害を医学的側面からみて理解する。</u> ○<u>障害児者や家族への支援を理解する。</u> ○<u>地域におけるサポート体制を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ> 第6章 障害の医学的理解と支援の実際 p.244～p.289 第1節 医学的側面からみた障害の理解 p.244～p.271 第2節 障害児・者への支援の実際 p.272～p.283</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○<u>様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</u> ○<u>障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</u> ○<u>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</u></p>				
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 (通信授業)		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子														
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修														
<p>[授業の目的・ねらい] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tr> <td>第7章 介護に関連するからだのしくみ</td> <td>p.292～p.334</td> </tr> <tr> <td>第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ</td> <td>p.292～p.297</td> </tr> <tr> <td>第2節 食事に関連するからだのしくみ</td> <td>p.298～p.305</td> </tr> <tr> <td>第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</td> <td>p.306～p.313</td> </tr> <tr> <td>第4節 排泄に関連するからだのしくみ</td> <td>p.314～p.319</td> </tr> <tr> <td>第5節 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ</td> <td>p.320～p.327</td> </tr> <tr> <td>第6節 睡眠に関連するからだのしくみ</td> <td>p.328～p.329</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。</p>					第7章 介護に関連するからだのしくみ	p.292～p.334	第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ	p.292～p.297	第2節 食事に関連するからだのしくみ	p.298～p.305	第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	p.306～p.313	第4節 排泄に関連するからだのしくみ	p.314～p.319	第5節 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	p.320～p.327	第6節 睡眠に関連するからだのしくみ	p.328～p.329
第7章 介護に関連するからだのしくみ	p.292～p.334																	
第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ	p.292～p.297																	
第2節 食事に関連するからだのしくみ	p.298～p.305																	
第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	p.306～p.313																	
第4節 排泄に関連するからだのしくみ	p.314～p.319																	
第5節 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	p.320～p.327																	
第6節 睡眠に関連するからだのしくみ	p.328～p.329																	
<p>[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 (60点未満の者は再度、レポート提出を行う)</p>																

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 （通信授業）		授業担当者 生井美奈 小林根 木田茂樹 遠藤由美子																														
授業の回数	時間数 60時間	配当学年・時期		必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] <u>○人間の心理について理解する。</u> <u>○人体の構造と機能を理解する。</u> <u>○身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント、観察のポイント、 介護、他職種との連携等の留意点を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table border="0"> <tr> <td>第8章</td> <td>心身の構造・機能と介護における観察のポイント</td> <td>p.336～p.460</td> </tr> <tr> <td>第1節</td> <td>人間の心理</td> <td>p.336～p.351</td> </tr> <tr> <td>第2節</td> <td>人体の構造と機能</td> <td>p.352～p.385</td> </tr> <tr> <td>第3節</td> <td>移動・移乗における観察のポイント</td> <td>p.386～p.393</td> </tr> <tr> <td>第4節</td> <td>食事における観察のポイント</td> <td>p.394～p.401</td> </tr> <tr> <td>第5節</td> <td>入浴、清潔保持における観察のポイント</td> <td>p.402～p.409</td> </tr> <tr> <td>第6節</td> <td>排泄における観察のポイント</td> <td>p.410～p.417</td> </tr> <tr> <td>第7節</td> <td>着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント</td> <td>p.418～p.427</td> </tr> <tr> <td>第8節</td> <td>睡眠における観察のポイント</td> <td>p.428～p.435</td> </tr> <tr> <td>第9節</td> <td>終末期における観察のポイント</td> <td>p.436～p.449</td> </tr> </table> <p>[授業終了時の達成課題] <u>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。</u> <u>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能に についての基本的な知識を修得している。</u> ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</p>					第8章	心身の構造・機能と介護における観察のポイント	p.336～p.460	第1節	人間の心理	p.336～p.351	第2節	人体の構造と機能	p.352～p.385	第3節	移動・移乗における観察のポイント	p.386～p.393	第4節	食事における観察のポイント	p.394～p.401	第5節	入浴、清潔保持における観察のポイント	p.402～p.409	第6節	排泄における観察のポイント	p.410～p.417	第7節	着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	p.418～p.427	第8節	睡眠における観察のポイント	p.428～p.435	第9節	終末期における観察のポイント	p.436～p.449
第8章	心身の構造・機能と介護における観察のポイント	p.336～p.460																																
第1節	人間の心理	p.336～p.351																																
第2節	人体の構造と機能	p.352～p.385																																
第3節	移動・移乗における観察のポイント	p.386～p.393																																
第4節	食事における観察のポイント	p.394～p.401																																
第5節	入浴、清潔保持における観察のポイント	p.402～p.409																																
第6節	排泄における観察のポイント	p.410～p.417																																
第7節	着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	p.418～p.427																																
第8節	睡眠における観察のポイント	p.428～p.435																																
第9節	終末期における観察のポイント	p.436～p.449																																
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 添削付レポート課題による評価60点以上で合格 （60点未満の者は再度、レポート提出を行う）																																

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者																						
医療的ケア		(通信授業)		遠藤由美子																						
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択																						
	通信:50時間			必修																						
<p>[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1章 医療的ケア実施の基礎</td> <td>p.1～p.272</td> </tr> <tr> <td> 第1節 医療的ケア</td> <td>p.2～p.33</td> </tr> <tr> <td> 第2節 安全な療養生活</td> <td>p.34～p.53</td> </tr> <tr> <td> 第3節 清潔保持と感染予防</td> <td>p.54～p.67</td> </tr> <tr> <td> 第4節 健康状態の把握</td> <td>p.68～p.76</td> </tr> <tr> <td>第2章 喀痰吸引</td> <td>p.86～p.148</td> </tr> <tr> <td> 第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</td> <td>p.86～p.121</td> </tr> <tr> <td> 第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</td> <td>p.122～p.140</td> </tr> <tr> <td>第3章 経管栄養</td> <td>p.150～p.202</td> </tr> <tr> <td> 第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論</td> <td>p.150～p.178</td> </tr> <tr> <td> 第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</td> <td>p.179～p.194</td> </tr> </tbody> </table> <p>[授業終了時の達成課題] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>					第1章 医療的ケア実施の基礎	p.1～p.272	第1節 医療的ケア	p.2～p.33	第2節 安全な療養生活	p.34～p.53	第3節 清潔保持と感染予防	p.54～p.67	第4節 健康状態の把握	p.68～p.76	第2章 喀痰吸引	p.86～p.148	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	p.86～p.121	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	p.122～p.140	第3章 経管栄養	p.150～p.202	第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	p.150～p.178	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	p.179～p.194
第1章 医療的ケア実施の基礎	p.1～p.272																									
第1節 医療的ケア	p.2～p.33																									
第2節 安全な療養生活	p.34～p.53																									
第3節 清潔保持と感染予防	p.54～p.67																									
第4節 健康状態の把握	p.68～p.76																									
第2章 喀痰吸引	p.86～p.148																									
第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	p.86～p.121																									
第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	p.122～p.140																									
第3章 経管栄養	p.150～p.202																									
第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	p.150～p.178																									
第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	p.179～p.194																									
[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻「医療的ケア」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。		[評価の方法および基準] 【通信】 演習問題による添削及び修了試験にて60点以上で合格 ※医療的ケア演習の要件は通信授業(喀痰吸引・経管栄養)を合格していること。																								

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類		授業担当者
医療的ケア演習		(演習授業・スクーリング)		遠藤由美子
授業の回数	時間数	配当学年・時期		必修・選択
2回	12時間			必修
<p>[授業の目的・ねらい] ○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>【講義による確認】 【演習】 第4章 演習 p.204～p.265 第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き p.204～p.225 第2節 経管栄養のケア実施の手引き p.226～p.255 第3節 救急蘇生法の手引き p.256～p.265</p> 【演習】 ○シミュレーターによる喀痰吸引の実施演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上) ○シミュレーターによる経管栄養の実施演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上) ○救急蘇生法演習(1回以上) ○医療的ケア全体のプロセス評価 <p>[授業終了時の達成課題] ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>・1回目 6時間 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習(5.5時間) 救急蘇生法演習(0.5時間)</p> <p>・2回目 6時間 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習(5.5時間) 救急蘇生法演習(0.5時間)</p>				
<p>[使用テキスト] 介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻「医療的ケア」 中央法規出版株式会社、平成27年11月発行。</p>		<p>[評価の方法および基準] 【演習】 ・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を実施回数以上実施した上で、5回目の指導者評価結果が全ての項目について手順通りに実施できていると認めた場合に演習の修了を認めることとする。 ・経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を実施回数以上実施した上で、5回目の指導者評価結果が全ての項目について手順通りに実施できていると認めた場合に演習の修了を認めることとする。 ※医療的ケア演習の要件は通信授業(喀痰吸引・経管栄養)を合格していること。 ※通信・演習両方の合格により修了を認定する。</p>		